

こんにちは！



Cコミュニティ Sソーシャル Wワーカー です。

市社協が市内 22 地区に配置するコミュニティソーシャルワーカー（CSW）は、地域に出向いて生活に困りごとを抱える人の相談を受け、関係機関や住民と連携し、地域での支えあい活動が広がるお手伝いをしています。

本号では、学校に行けない・行きづらさがある子どもをもつ親のコミュニティ「ほっとけ～き」立ち上げ支援の事例から、「地域支援」の取組みを紹介します。



「困りごと」の気づき



- ・子どもが不登校になったらどう対応すればいいだろう。
- ・周りに話ができる人がいない。どこに相談すればいいのかな。
- ・親も孤立感を感じるんです。
- …不登校の子を持つ親たちからの「困りごと」がCSWに寄せられました。

「困りごと」の共有



同じ悩みを持つ親を集めて話し合いの場をつくることに。地域の子育てに関する支援を専門に担当する主任児童委員にも同席してもらいました。

・他市には不登校児の親の会がいくつかあるが相模原市には少ない。という課題があることが分かりました。

「親同士がつながり、相談できる場」をつくるべく検討を重ねました。



「地域支援・仕組みづくり」へ



親たちが自らグループを立ち上げ、交流の場づくりに取り組むようになりました。毎月集まって意見交換を行い、Instagramを活用した情報発信もスタート。参加者からは、「同じ境遇だからこそ打ち明けることができる」「こんな場所を探していた」という声を聞くことができました。



家庭環境や子どもの特性、経済的な悩み、各学校の事情、行政や地域のサービス情報など話題は尽きません。民生委員や福祉の専門職がオブザーバーとして参加することも。予約不要で参加できます。



Instagram

事例のポイント



<ほっとけ~き参加者の声>

- ・「親として自責の念を感じている人も多い。子をフォローしてくれる場があっても親をフォローしてくれる場はない。親が元気にならないといけない」
- ・「時代が大きく変わっても教育のシステムが変わっていない。それでも行政を批判するより自分たちでできることをコツコツとやっていきたい」

個別支援から地域支援へ

・不登校の子どもを持つ当事者である家族からの相談がCSWに複数寄せられ、「親同士の繋がりがほしい」というニーズを把握し、自主団体「ほっとけ~き」の立ち上げを支援。

→さらに、市22地区社会福祉協議会が開催したフォーラムで「ほっとけ~き」メンバーが経験談や思いを発信できるようにコーディネート。

さがみはら子どもにやさしいまちづくりフォーラム
 ~不登校を地域で考える~ 参加無料

学校に行っても行かなくても、障がいがあってもなくても、子どもたちが自分らしく生きるために、大人が子どもに寄り添って何ができるのか。西野博之氏が運営する川崎市の子どもの居場所「フリースペースたまりば」をヒントに、子どもにやさしいまちづくりのために、不登校を地域で考えるフォーラムです。

7/25(木) けやき会館5階 大樹の間
 午後1時30分~4時 (開場:午後0時30分~)

第1部 講演「ともに育ち ともに生きるまなざし」
 西野 博之 氏 (認定NPO法人フリースペースたまりば 理事長)

第2部 フォーラム (コーディネーター:西野 博之 氏)

<パネリスト>
 ①相模原市教育委員会 青少年相談センター 指導主事 丸岡 智美 氏
 ②ほっとけ~き(不登校児をもつ親の会) 代表 福井 亜希 氏
 ③田名地区社会福祉協議会 会長 田所 恒男 氏

コーディネーターに西野氏を迎え、相模原市の学校関係者、相模原市在住の不登校児を持つ親の会、地区内で学校と連携して、児童・生徒が参加する福祉活動を展開している田名地区社会福祉協議会から「相模原の子どもを取巻く現状」についてお話をいただきます。

※申込方法は裏面をご覧ください。(本講座は、後日動画配信のため録画を行います。)

主催:相模原市22地区社会福祉協議会
 【共催】相模原市社会福祉協議会
 【後援】相模原市、相模原市教育委員会、相模原市自治会連合会、相模原市民生委員児童委員協議会

~不登校を地域で考える~をテーマに、関心を寄せる多くの参加者が集まった。



障がいがあるがなかるうが、不登校であろうがなかるうが、その子にあった選択肢がもてる「さがみはら」になってくれれば嬉しいです。

「ほっとけ~き」代表から

CSW が一緒に伴走して課題を整理してくれたことが心強く、パワーをもらいました。現在も活発に情報交換が行われ、この場所をみんなで作っている感覚です。親だけではなく、子どもの味方を増やしていきたいです。

CSW の取り組みで大切なことは、個別支援と地域支援をセットにして展開することです。『不登校』を地域課題として受け止め、たくさんの人を巻き込みながら、相模原に足りない仕組みづくりをすすめていくこともCSWの役割といえます。

《CSW アドバイザー・田園調布学園大学 隅河内 司 教授》

